

令和 6 年度 住之江区区政会議

第 2 回 愛しむ部会 会議録

1 開催日時 令和 6 年 1 0 月 1 6 日（水） 1 9 時 0 0 分から 2 0 時 0 0 分まで

2 開催場所 住之江区役所 4 階 第 4 － 1 会議室

3 出席者

〔区政会議委員〕

長谷 克己 委員、大西 徹 委員、田貝 泉 委員、竹内 周次 委員

谷本 さやか 委員

（出席 5 人／定数 8 人）

〔住之江区役所〕

吉田 政幸 副区長

井平 伸二 協働まちづくり課長

来馬 恵 I C T ・企画担当課長

松本 勝也 保健福祉課長

岩本 穰 生活支援課長

福田 佳代子 保健担当課長

川井 圭史 協働まちづくり課長代理

峯上 和博 I C T ・企画担当課長代理

大家 典子 保健福祉課長代理

片山 佳子 保健副主幹

戸井 正人 生活支援課長代理

本田 弘美 保健副主幹

4 発言内容

○井平協働まちづくり課長

それでは時間になりましたので、令和6年度住之江区区政会議、第2回愛しむ部会を開催いたします。

事務局の住之江区役所協働まちづくり課長の井平です。よろしくお願いいたします。

最初に、報告事項が1点ございます。当部会委員の辞任に伴う公募委員選考会議を8月に実施させていただきまして、令和6年10月1日より大西徹様に新たに当部会の区政会議委員に御就任いただくことになりました。大西様におかれましては、これから1年間、区政会議委員を務めていただくことになります。どうぞよろしくお願いいたします。

早速ではございますが、大西様、簡単に自己紹介をお願いしてよろしいですか。

○大西委員

大西です。よろしくお願いいたします。住所は西加賀屋に住んでいるんですけども、僕は今まであんまり地元のことをそんなに勉強したことがなくて、住之江区に移り住んでから30年近くになりますけれどもあんまり分かってなくて、「さざんか」を見たときに区政会議の公募と出ていたので、これはひょっとしたら微力ながら住之江区のために何かできるんじゃないかなと思って応募させていただきました。まだまだ本当に僕は全然分かっていなくて勉強不足なので、これからいろいろ勉強していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○井平協働まちづくり課長

大西様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日御出席いただいている委員を御紹介いたします。お手元の名簿に

て御確認ください。

会場にお越しにいただいている委員は、長谷部会長、大西委員、谷本委員、竹内委員、田貝委員、茶谷委員はちょっと遅れております。中川委員と吉川委員は、所用により欠席となっています。

本会議は、午後7時現在、全委員8名中5名の御出席をいただいておりますので、定足数である委員定数の2分の1以上を満たしておりますことを御報告いたします。

住之江区役所の出席者につきましては、配席表にて御確認ください。また、発言する際には、役職と名前をお伝えさせていただきます。

この会議には、個人情報などの非公開情報はございませんので、公開とさせていただきます。また、本日の傍聴者はおられません。

なお、大阪市では省エネルギーの取組として、7月1日から10月31日まで関西夏のエコスタイルを実施しております。軽装での会議出席となりますので、御了承ください。

本日の議論の内容は、11月28日木曜日に開催予定の区政会議全体会にて御報告いただき、情報共有を図ってまいりたいと考えております。

また、議事録につきましても後日公開となり、公表する際は発言者と発言内容についても公開されます。また、広報や記録のために写真を撮影しますので、併せて御了承くださいますようお願いいたします。

それでは、本日の資料の確認をお願いいたします。最初に次第、次に愛しむ部会の委員名簿、片面が全体の名簿になります。それと配席図、資料1として「令和6年度住之江区運営方針の進捗状況と今後の方向性について」と、資料2が「区政会議について」と書いてあるもので、裏面が「地域活動協議会について」と書かれています。その他参考資料としまして、「大阪市の介護予防ポイント事業のチラシ」と「介護予防ポイント事業であなたが活躍できる時間をつくりませんか？」ということで「登録時研修が開始されます」というチラシを参考で入れさせていただきます。

以上ですが、不足等は大丈夫でしょうか。

本日の会議ですが、「令和 6 年度住之江区運営方針の進捗状況と今後の方向性について」御報告し、今後、各取組みにつなげていけるよう御意見をいただきたいと思います。本日は、時間は 20 時までの 1 時間を予定しております。スムーズな議事進行に御協力をお願いいたします。

それでは、ここから議事を開始しますので、部会長にお任せさせていただきますに進めていただきたいと思います。

長谷部会長、よろしくお願いいたします。

○長谷部会長

皆さん、改めましてこんばんは。今からこの 2 つのテーマについて議論していただくわけですが、早速ですが、事務局の井平課長より説明をよろしくお願いいたします。

○井平協働まちづくり課長

本日の資料は、「令和 6 年度住之江区運営方針の進捗状況と今後の方向性について」となっております。運営方針とは、住之江区が重点的に取り組む課題を挙げて、その課題を解決することを目的とした取組みを掲げたものとなっており、『子どもに関すること』、『地域と福祉に関すること』、『防災防犯に関すること』の 3 つの経営課題を掲げています。当部会では、そのうちの『地域と福祉に関すること』に関する経営課題 2 「すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり」について御議論いただくこととなります。資料には、この課題でめざす主な SDGs ゴールを掲載していますので、御参考に御覧ください。

それでは、具体的な説明に入らせていただきます。資料を 1 枚めくっていただきますと、令和 6 年度住之江区運営方針の課題と今後の方向性について簡単にまとめています。また、5 ページ以降にそれぞれの取組の進捗状況や課題等を記載し、特に御意見をいただきたい今後の方向性については赤枠で囲んでいます。

それでは、資料の 1 ページを御覧ください。

初めに、経営課題 2－1 地域の活力と魅力の向上の各取組の課題と方向性について、御説明いたします。

まず、具体的取組 2－1－1 多様な主体による地域の活気と魅力づくりのための取組として、企業・NPO・学校・地域交流会の開催など、地域資源を活用した地域活動の支援を行っています。

地域課題の解決に向けた協働取組がさらに活発になるよう支援が必要であり、引き続きまちづくりセンターと連携し、継続的な支援を行ってまいります。

なお、資料 5 ページのクローズアップに記載しておりますように、令和 6 年度の第 1 回企業・NPO・学校・地域交流会を 9 月 27 日に開催いたしました。まちづくりセンターの運営が新たな受託事業者になりまして初めての開催でしたが、地域活動協議会から 25 名、企業・NPO 等から 21 名の参加をいただき、小グループでのワークショップを行うなど、多くの交流を図ることができたのではないかと考えております。引き続き、より効果的な活動となるよう進めてまいります。

次に、戻っていただきまして、具体的取組 2－1－2 地域活動協議会による自律的な地域運営の促進の取組としまして、まちづくりセンターと連携し、地域活動協議会の情報発信等にかかるスキル向上のための取組の支援を行っています。具体的には、7 ページに記載のとおり、地域活動協議会実務者交流会を 7 月 11 日に開催しまして、チラシづくり講座、すみのえ情報局の活用の仕方などについて説明を行うとともに、区の広報紙において毎月、各地域活動協議会の活動を紹介しています。引き続き、まちづくりセンターと連携して支援を行ってまいります。

1 ページに戻っていただきまして、次に具体的取組 2－1－3 地域の魅力の共有と発信の取組としまして、地域が情報を発信することができるポータルサイト「すみのえ情報局」の運営、周知、投稿支援を行っています。

「すみのえ情報局」につきましては、令和 4 年 2 月に開設以降、一定数の団体に

登録いただくとともに、簡単に投稿ができるよう「簡易投稿マニュアル」や「投稿動画」を作成してきましたが、現在、利用・投稿される団体に偏りが生じております。今後、利用状況の検証を行いまして、その結果も踏まえてポータルサイトの在り方について検討してまいります。

また、クローズアップに記載しておりますが、引き続き「すみのえ情報局」における各種団体への投稿支援を行い、住之江区内のふれあい喫茶等で「スマホちょこつと相談会」を開催するなど、青少年指導員連絡協議会とも連携し、区民のリテラシー向上に取り組んでまいります。

次に、経営課題 2－2 支え見守りあう地域づくりの各取組について御説明いたします。

まず、具体的取組 2－2－1 安心を提供する福祉施策の推進の取組としまして、区民の困りごとに対してよりの確な支援につなげるよう、今年度も職員の「気づき」「感度の向上」を図るため研修を実施しました。

引き続き、区役所の職員が、区民の困りごとに対してよりの確な支援につなげられるよう、「気づき」や「感度の向上」に関する安定的に継続した研修を実施し、相談対応力の向上に努めてまいります。

また、個別の支援に当たっては、関係機関の情報共有・連携のため総合的な支援の場として、つながる場や生活困窮者支援会議など積極的に活用してまいります。

最後に、具体的取組 2－2－2 地域福祉の充実の取組としまして、各地域において日頃から見守り活動の担い手となるサポーターを養成するため、見守りあったかネットサポーター養成講座を開催するとともに、見守りあったかネット会議を毎月開催し、各地域の課題や取組の共有を行っています。

引き続き、サポーター養成講座に新たな参加者を増やすため、地域のつながりなどの活用やニーズを明確にするなどにより、参加の促進に取り組んでまいります。

資料の説明は以上でございますが、本日の部会につきましては、特に前回の会議

でも御意見をいただきました「情報が届きにくい世代の方などに、地域の活動についての情報を共有し、参加してもらうための方法」、「地域の活動やイベントに参加されていない、誰ともつながっていない人とつながる工夫」、また「地域に必要な支援」などについて、引き続き御意見をいただければと存じます。

私からの説明は以上でございます。ちょっと早口で説明しまして申し訳ございません。部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○長谷部会長

ありがとうございました。

今、事務局からの説明、今おっしゃったように早口でついていくのに大変だったんですけれども、本日は2つのテーマについて御説明をいただきました。今後、各取組についての質問やよりよい取組にするために必要な、また事務局から特に御意見いただきたいと依頼のあった内容について御意見、御提案等をいただければと思います。なるべく多くの御意見をいただきたいと思いますが、なにぶん時間の制約もありますので、できるだけ簡潔に取りまとめてお話をしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ちなみに在宅はないですね。

○井平協働まちづくり課長

ないです。今、茶谷さんも仕事で来られないという連絡が入ったみたいなので今日は5名になります。

○長谷部会長

一応できるだけ多くの皆さんの御意見をいただきたいので、皆さんの思うところがございましたら、この最初にあった2-1の「地域の活力と魅力の向上」と、2-2の「支え見守りあう地域づくり」ということに関しての御意見、また御提案等がありましたら、よろしくお願いいたします。

どうぞ、竹内委員。

○竹内委員

幾つかあるのですが、4ページの上のところの計画、めざす状態の中で一行目に「地域の活気と魅力が向上している状態」ということで、地域の活気というのは一体何で見るのか、あるいは魅力というのは何なのか、というのがちょっとはっきり分からないので、あと戦略が読みにくいんですけども、これは質問です。はっきりさせていただきたいと思います。

魅力は特につい課題の方ばかりに目がいきがちですけど、各地域、14地域あったらそれぞれの魅力があると思うので、以前は地域ごとの地域カルテとかに書いてあったと思うんです。最近はどうなのかな、住んでいる人自身が地域の魅力を分かっているというところもありますので、客観的なところでその魅力を整理して出していたら。この間だされた地域福祉計画では割愛されたと思う。各地域でやってることを書いたらいいと思う。魅力、何かあったと思う。それは、以前のこの会議でも申し上げたと思うんですけども、やっぱり魅力って大事だと思うので改めてここは教えていただけたら。今日はちょっと一件だけでは無理かも分からないので、それは質問です。

あともう一つだけ、この絡みで5ページの2-1-1です。ここで、地域交流会のお話がありますが、私は地域交流会に出させていただいて、本当にためになるというか、企業の方とかとお話できて非常にありがたいというか、刺激になっているんですけど、クローズアップに書いていただいている地域活動協議会から25名ということで、来られてない地域の方も結構おられました。この地域交流会は方向性として継続的な実施と書いていただいていますけど、それはそれでいいんですが、やっぱり参加者をもっと、特に地活協の方は全員来ていただけるようなことでやっていただけたらと思うんですね。私は南港に住んでいますけど、南港の方が来られてなかったらその地域としてのお話がなかなかしにくい。企業の方とお話できても地域としてのお話がなかなかできないので、今回もできなかったのも、ぜひ全地活協の方が出てこられる会議に、交流会にさせていただけたらということを方向性として、その辺を加え

ていただけたらと思います。あとはありますけど、取りあえず。

○長谷部会長

まだありましたらどうぞ。

○竹内委員

ほかのページになるので。

○長谷部会長

竹内さんの意見で、地域の魅力といいますか、そういうことと交流会で、これは任意なんですよ。参加することを強制できないもんやから、なかなか難しいと思うんですけども、地活協の構成する地域の方のそういう意識をまず高めていくことが大事じゃないかなと思うんですよ。だからそれは何やというたら、結局その地域の魅力とか、そこに住んでいて自分はよかったなと思えるような地域をつくっていくことがそういうことにつながっていくんじゃないかと、私は思うんですけどね。自分の地域がそうかなと考えたこともないし、自分たちが何か魅力をつくる母体になることもあまりないので、ちょっと難しい問題ですけど、その辺は鋭意検討していただいてはいかがでしょう。

○井平協働まちづくり課長

交流会のところは竹内委員からもずっと意見をいただいているところですが、今回これまでに比べたら地域からも結構出てきていただいていたんですけども、おっしゃるとおり全地域ではないんです。ただ、日にちも限られますし、全員そろうのはなかなか難しいところはあるんですけども、全ての地域から来ていただけるようにお声かけしながら進めていきたいなと思っておりますので、引き続きそこはしっかりと取り組んでいきたいと思います。

交流のほうも、どんな形がいいのかというのは手探りで、まちづくりセンターでもいろいろ検討してくれていまして、大きく全体に話をしてもらう形がいいのか、今回みたいなワークショップで小さなグループで意見交換するのがいいのかというところ

ろもいろいろ検討しながら今後進めていきたいと思っていますので、またいろんな意見いただきながら、より効果的なものを手探りで進めていけたらなと思いますので、引き続き御協力いただけましたらありがたいです。よろしくお願いします。

○長谷部会長

はい、ありがとうございます。

それでは、ほかに。

谷本さん。

○谷本委員

今のでちょっと聞いてみたいんですけど、地域活動協議会って要は町会ですよね。単位でいうと、うちの地域でいうと、住吉川地域の一番上は町会長さんのトップの人みたいな感じですよね。その人にこういうのがありますよという話が行くんですか。それとも何か、どういうルートでそれぞれに。

○井平協働まちづくり課長

まちづくりセンターが町会長、連長にも話をするんですけど、それ以外にも地域で活動されている方のところに話をして、事務局であるとか、そこで話をして参加してもらおうというような形にしています。

○谷本委員

それはP T Aとかですか。

○井平協働まちづくり課長

具体的にP T Aという形ではなくて。

○谷本委員

子ども会とかですか。

○井平協働まちづくり課長

いや、子ども会でもないです。

地域活動協議会の中で、今回でいうとテーマが「防災、担い手、居場所づくり」

ということだったので、防災的な取組をされている方とか。

○谷本委員

おじいちゃんたちですね。

○井平協働まちづくり課長

それは地域によっていろいろですが。

○谷本委員

うちの地域はおじいちゃんたちが防災系をやっているのです。

○井平協働まちづくり課長

そうですね。防災も何でもそうですけど高齢化というのは、全ての団体に課題にはなっているんですけど、それとそこが新しい担い手をどう見つけるかというようなところをちょっとこれからやっていかないと、という課題はありますが。

○谷本委員

その町会長さんだけの集まりのところだけ言っているんだったら、例えばそこで別にそこにいる人たちが必要ないわと思ったら行かないというふうになってしまうし、でも、ほかにそういう例えばPTAだったり子ども会だったりという人たちで、いや、そういう企業と関わってみたいというふうに思っても、話が町会長さんたちから来なかったら知るすべがないのかなと思って。なので、所属してる小さい団体とかにも情報が行くような、住吉川は町会長さんだけに行くみたいなんじゃなくて、全部にそれを区役所さんから連絡してもらおうのはすごい大変かもしれないんですけど、つながっている人に子ども会の会長さんだとか、小学校のPTAのところに郵送でも何でもこういうのをやりますというので送ってもらおうとかするほうが参加者は増えるし、年代もいろんな人が来るんじゃないかなと思うんです。

町会とかやっている、地域活動協議会もやっている人もやっぱり年配の方がどうしても多いイメージで、自分たちのことでいっぱいいっぱいというのもあると思うので、なかなかこういう発展したとこまでやってみようという人も少ないのかなと。そ

れで参加者もどうしてもその次の一步が出せなくて、参加するのちょっと二の足を踏んだりする人もあるんじゃないかなというのもあったりしますし、うちの町会だと柴谷という地域があるんですけど、住吉川柴谷と加賀屋地域はちょっと離れているじゃないですか。でも柴谷のほうは新しいお家が多いので、若いお父さんお母さんたち、いうたら若い世代の人たちが多いので、町会長さんとかも若いんですね。でも、加賀谷地域は昔からのところなので、やっぱりちょっとお年を召した方が会長さんになっているところが多いので、そこでちょっと意見が違ったりとか、何かどうしても昔ながらのやり方でやるというのも、いいところはもちろんあるんです。でも、新しいやり方もやってみたいと、うち地域運動会というのがあるんですけど、去年から新しいやり方をやってみようとやって、それでよかった点と悪かった点があったので、今年は結局またトップが代わってしまったので、また全然違うやり方になって、よかったのか悪かったのか人によって感じ方は違うんですけど、とにかくやってみようという感じでいろいろやってはいるところなんです。

なので、もう上の人たちもどんどん代わってしまうから、この人には言ったけど、次の人に言ってなかったら伝わらないっていう、こういうのがあるよというのも分からなかったりするんで、やっぱり一回言うんじゃないくて、常に常にこういうのあるよ、こういうのあるよというのが分かるような、私これ前も言ったかもしれないですけど、いろんな情報源があると助かるなというふうに思います。私なんか特にもうどこともPTAにも小学校とか入ってないですし、何もつながりがないので、そういうのを知るすべがないので、ここでいろんな地域のことを知ったりするので、そういう情報源が欲しいなというのはあります。「さざんか」ぐらいしかないかなと思うので。

○井平協働まちづくり課長

いろんな情報を今の御意見を受けながら、どういった形で発信するかというのは検討していきたいと思います。ただ、区役所が行っている支援というのは地域活動協議会に対する支援でして、区役所が全てにできるわけじゃないので、そこが一番窓口

にはなるんですけど、今の御意見もありますので何か方法があるのかどうか。区役所が直接やるんじゃなくてまちづくりセンターを通じていろいろ検討できると思いますし、また、新たなこともできればいいかなとは思っています。

○谷本委員

そうなるとやっぱり結局、先ほどおっしゃっていたみたいにその地域活動協議会の熱量によって差が出てくるのかなというふうにどうしても思いますね。

○長谷部会長

今、地域活動協議会という組織と連合町会という組織とは別、一つの連合の中で別の団体になっているところもありますよね。

○井平協働まちづくり課長

はい。

○長谷部会長

もちろん別なのは分かるけれども、その会長は、地活協の会長と連合町会の会長って、あるところありますよね。うちの場合はもう一括して全て、連合町会か地活協か分からない。ということは全部がもう地活協も連合町会もみんな一緒にやっている。今おっしゃったようにほとんど高齢化しているんですけどね。そのときの連絡方法とか、こっちに連絡したけどこっちに入っていないとか、そういうこともあるでしょう。こういうことをやりますよというような。それともう一つは、交流会は何かテーマを決めてやっているわけですね。

○井平協働まちづくり課長

そうですね。

○長谷部会長

今さっき言った防災とかいうような、そうすると、そういう会合に出て何か話しようと思ったら、多少なりとも知識ないと行かれへん。だから一般の普通の人がかなかいけないという、だから基本的に竹内さんがおっしゃったように、やっぱり各

連合なり地活協なりの代表者が誰か一人その会合には出てきて、自分がそこで会議した話を地元へ持って帰って会議のときにそういうことを報告するのが。

○谷本委員

それが一番理想ですね。

○長谷部会長

そういうようなことをやらないと駄目ですよ。だから任意じゃ駄目なんや。

それは強制できることじゃないので、地活協も連合町会も任意団体、地活協は任意団体じゃないんですか。

○井平協働まちづくり課長

地活協は任意団体ですけど、大阪市から補助金が出る登録団体になっているので、認定団体になっています。

○長谷部会長

必ず一人は出席してくれというぐらいにね、強く強く。

○井平協働まちづくり課長

その話はしています。そのときによって出席できないということもあり、強制はできないですけど、できるだけ働きかけてみます。

○長谷部会長

でも何らかの形で、一般の我々が何でそんなこっちの人が知っていて我々は知らんねんというようなことは、できるだけ少ないほうがいいと思うんですよ。だから、いろんなことで我々も知らない、そんなことがあったのかというのが結構あるんですよ。それは難しいと思うんですよ。隅々までそれを知らすということは難しいと思うけど、その広報的な手段みたいなことを我々も含めて一緒に検討していって進めていけたらいいかなと思います。

次、田貝さん。

○田貝委員

さっきの続きで「さざんか」で知ると言っただけで、「さざんか」でうちも地域公開講座を無料で医療的なこととか、専門職を教えることとかでも、載せてもらえますか、というときに、それは大きな公立大学だったりとか、公立の病院、大きなところしか載せられませんか、民間企業さんはちょっと遠慮してもらっているんですという御意見があって、そうしたら、そういうところの大きなところしか情報が載らないわけやから、それはどうなんかなと。もちろんそんなん言うたらもう営利目的のところは次々うちうちもとなってくるかもしれへんけど、そこら辺がすごい難しいところだと思うんですけど、今後検討していただけたらどうなのかなと。

○吉田副区長

その辺の課題については、区としても出ましたし、これ今もあるんですけど、その中で少しでもそういう形で情報発信の場を公的に設けようという発想でつくったのが「すみのえ情報局」ということです。ただ、あれについては登録していただく団体の段階では若干制約がありますが、営利目的の情報とか載せないでくださいということは言うているんですけども、それ以外に自分たちでそういうのを発信していただけ。

どうしても行政が運営しますと、行政の部分しか載せられないので、自由度とそのスピード感が失われてしまいますので、そういった意味での発想が「すみのえ情報局」やったんですけども、御意見の中で載せるに当たっての手間とか煩わしさとか、その辺をどういう具合に工夫していけばいいかというのは今後の課題としてもあります。ただ、こちら側が受けた情報を整理して載せるとなるとワンクッション入ったり、それこそこの部分は載せられる、載せられないという意図が変わってくるので、そこはできるだけ自由に載せていただけるというような発想でやったので、方向性は区としては間違いではないかなと思いつつ、活用の仕方について今後もっとよりよい活用の仕方というのを工夫する余地があるかな、というふうには考えています。

○谷本委員

今のところ興味があったり、自分がやってみたいと思う人は積極的に参加していて、発信をしようとしているけれど、竹内さんがおっしゃるようにそれを要は住之江区の全部のところが意欲的にやっていかないと魅力的なものというのはなかなか上がっていきにくいという、そのジレンマですね。

○吉田副区長

やっぱり地域の形でいきますと、それぞれ14地活協がございますけれども、自分のところの地活協向けの情報やけど、結局その辺がセレクトできないので、極端な話ですけど、別に住之江に住んでない大阪に住んでない人に対するものになるので、オープンになるので、そこまでオープンにする必要はないよとかいう形で、投稿の部分が自分のところだけの連絡網でええんちゃうかとか、そういうふうになってしまう考えのところも出てきたりしていますので、だから、投稿の件数の差がものすごく出ている。だから別によその全地域、活動してないから載ってないんじゃないくて、活動しているけれども自分のところの地域の方だけの情報でいいから、ここにわざわざ載せなくてもええんちゃうかという考え方で載せてないところとか、その辺をどういう具合にしていくのが一番情報につながるか、外向けにもそうですね。住之江としてこんな活動している地域も、やってますよという魅力発信の一つとして考えていて、それを理解していくことによってふだん地域で活動してない方が、うちのところの地域はこんな活動をしていたんかという気づきの場にもなるかな、というところもあったんですけど、発想と現実のところの部分で、どちらかというところとそういった部分で僕らどうしても自分達の考え方でやりますので、そういうので御提案いただいて、こういうふうに工夫したほうがいいんじゃないかというところを御意見いただけると非常にありがたいなと思います。

○谷本委員

難しいですね。それが分かればいいんですけどね。

○長谷部会長

一応今の話についてはできるだけ多くの人に知ってもらうための手段とか、そういうことに関して我々も含めていろいろ検討課題になっているかと思いますので、役所のほうも真面目に考えていただいて、できるだけ多くの人にいろんな情報が届くような手段、案を考えていただいて、よりよい方向に持っていけるような話を我々も含めて一緒に仕事をさせていただきたいと思います。

大西さん、初めてなんですけれども、何か。

○大西委員

僕はまだまだ勉強不足なんですけれども、まちづくりセンターは多分住之江区以外の区もやられていると思うんです。先ほどおっしゃっていたように情報量は実は住之江区のまちづくりセンターとほかの区と多分大分違うと思うんです。ほかの区を見ると、結構こういう活動をやっていますとか、いろんな実際やった、例えば地域交流会なんかをやった結果も実はまちづくりセンターが発信したりとかしているようなところもあるので、住之江区だけじゃなくてほかの区のいろんな活動も参考にさせていただいて、いいところは取り入れてもらったらいいかなと思います。

○竹内委員

まちセンさんはこの4月から変わりましたね。

ほかの城東とか都島とか東住吉なんかもやってはって、その実績をもって住之江もやっていただいているんですけれども、変わったばかりで地域のことや全部のことまでよく分からんみたいな話もあるんでしょうけれども、ホームページがあります、フェイスブックあります、となっているんですけれども、フェイスブックはフォロワー14人です。

○井平協働まちづくり課長

ぜひ見てください。

○竹内委員

僕はフォローしているんですけれども、フェイスブックやったら書き込みはった

らすぐ見れますけど、ほとんど上がってこないです。今そんな状態です。まだ多分手が回らないのかも分からないけれども。

○井平協働まちづくり課長

これも上げていますよね。

○竹内委員

なかなかね、まちセンさん、いろんな今回の資料でも今のところでまちセンと連携してとか、結構そこへ頼りにしてはるから、もっともっと。

○大西委員

そうなんです。僕もほかの区を見たらもっとものすごく充実しているところありますよ。中央区とか、ほかの区を見たらいろんな活動されていて、住之江区を見たら、おっしゃるようにラインに登録できるのが2つでフェイスブックが3つで、中を見たらフォロワーは確かに少ないですよ。だからその辺りをもう少し情報発信ができるような環境とか、インフラが整っていないと、僕らもなかなか情報を見ようと思うと、ホームページを探したりとか、何か自分で能動的に行こう思うんだけど、実は見に行こうとすると探せないんですね。それからいうと、区から情報発信してもらうのは大事ですけども、自分たちが能動的に見に行くときに見られないとなるとそこまでたどり着かないので、その辺りをユーザーインターフェースじゃないですけど、その辺りを少し改善いただかないと情報は伝わりにくいと思う。その辺りまちづくりセンターさんでやっていただくのか、区でやるのか、ちょっと分からないですけども、改善していただく部分は結構あるのかなと思います。

○竹内委員

まちセンがこの後、各地活協のそういう情報発信の支援をしていきますと書いてある。まちセン自身が、ホームページが本当にみすばらしいです。こんなんホームページちゃうわと、全然ですよ。まだ住之江区のこと御存じないなと思いますけど、この後地活協での情報発信のスキルとかいうことも研修でやりますとか書いてますけど

ね、スキルもそうですけど中身ですよ。何を発信するねんという、魅力であったり、あるいは課題に応じてこんなことをやっていますよという、何を発信するかというそのセンスというか、その辺だと思うんですよ。そこをそれぞれ地域交流会に出てきて、みんなで議論と意見交換したら情報交換したら、ほかの地域はこんなことをやっているわというので刺激を受けて、自分のところの地活協のホームページにそういうことも書いたりというような形になっていくと思うので、この後まちセンに大分頑張ってもらわなあかんし、区役所も大分まちセンに対してもっとそこを活用するような活動を、もっとまちセンの活動ができるようにしてもらおうような形で話を持っていただけたらいいんじゃないかなと思って、全体見て思います。

○井平協働まちづくり課長

まちセンのホームページはこのページになります。これにフェイスブックがあるんですけど、この間の地域安全大会もありますし、今の交流会のも載っているんです。ちょっと見にくいところはあると思うんですけど、こういう形で今徐々にどんどんそういう発信も含めてしていただこうと思っていますので。今フォロワー14というのは確かにそうなので、その辺りをどれだけ地域とかいろんな方に伝えていくかということも大事だと思いますので、そこは区役所も合わせて一緒にやっていきたいと思います。ぜひフォローしていただいて増やしていただきながら、ほかの方にもちょっと宣伝していただいて広めていただければありがたいです。すみません、区役所も一緒に頑張ります。

○長谷部会長

一ついいですか。今、お話されているのは全部インターネットを使った、パソコンを使った、携帯を使ったとかいうような情報発信の方法が主に議論されているんですけども、正直そういったものを自由に使いこなしている方は一体、全国的にいても高齢者がかなり増えてきている中で、実際にどこに行っても今はもうそういうホームページとかそういうことの話が多くて、私らみたいな年寄りには、私も一応パソコン

は使えて一応覗いたりもしているわけで、できるんですけど、実際にそういうこと自体が一切できない人たちがいかに多いかということもちょっと頭に入れておいていただかないと、パソコンを使えて、携帯電話も使いこなせて、全ての情報をそこから取り入れられる人たちはそれでいいんですけど、それ以外の人たちに対してどのようなお知らせの仕方をするのかということも十分考えて、そういったことを含めたら、私は地域の連合町会であり、地活協であり、各単位の町会さんに情報がきちっと流れるようなシステム的なことがあったらもっと細かいところに、町会長が「おばちゃん、こんなこと今度あるで」とか口頭で伝えられるというようなこともあるので、地活協とかそういった会合のところの人たちがもっと真面目に対応してくれていたら、いろんな情報の発信の仕方も出てくるんじゃないかなと思うんですね。だから、必ずしもこれは正直、これは電気がなくなったら皆さんはどうするのと、原始的な話をしてもしょうがないと思うんですけどあり得ますよ。そういうことは将来的にもね。だから、その辺のところも考えていかんと、これにばかり頼ったことをやってもいつか頭打ちが来るんじゃないかなというのがあるんですね。だから、これは素晴らしいことやし、どんどん使える人はそういったことをその情報をほかに広められるというような、そういう地域関係みたいなもののつくり方も、それが魅力とかいうようなことにつながっていくんじゃないかなと思うので。

一応、この話をこの辺にして。

○竹内委員

今の話で、大阪市の高齢者福祉計画というのが今年から3年間かな、この4月にできたんですけど、この280ページぐらいある分厚い資料、その中に書いてあったもの見つけたんですけど、65歳以上の高齢者が情報を取るのに一番多いのが何やといたら、友人知人口コミで3割、4割は知り合いから聞いてくる。その次に何やといたら広報紙なんですよ。これは僕も意外だったけど2割か、そこらの人は広報紙なんですよ。インターネットとかそういう配信、ホームページとかいうのは65歳以

上の人は２％から３％なんです。そういう資料があったんです。だから、あんまりインターネットに頼ってもあかんかと、やっぱりしっかりと今おっしゃったような地活協ルートというか、口コミで町会の誰か知り合いからとか、お隣さんから聞くとかいのが結構効くんだと思うんですね。そういうことを改めて思いました。

○長谷部会長

そうですね。だから、地活協なり連合町会なりの町会長さんの意欲のある地活協とか、連合さんはやっぱりある程度細かく情報を発信されていると思うんですけど、地活協を運営することにきゅうきゅうとしているような地域も多分あると思うんですよ。だからその辺のところをいろんな面で改革していかんとあかんやろなと。でも、私が地活協をどうこうとは言えないですけど。

○井平協働まちづくり課長

長谷部会長の地域はきちっと縦に流れていくようになっていますね。

○長谷部会長

それで、私らみたいな者でも端っこに加えていただいて、いろんな意見を言わせてくれるというのはありがたいなと思うし、その辺のところは言えば大人の井戸端会議みたいなのがあっちこっちにできたら、そういう口コミでの情報交換みたいなのができるし、これはこれからの課題だろうと思うので、これからも一緒に考えていきたいと思います。

ほかに何か、はい、どうぞ。

田貝さん。

○田貝委員

今、２－２のところでめざす状態で「すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり」で、先ほども始まる前に１０ページで、認知症の方が増えるというのがあって、実は私ごとなんですけど、福岡市で学会に参加してきたんですけど、福岡市はユマニチュードケアというのを消防署の人も、消防士さんが認知症の人を助けに行ったらび

っくりしたりするから、そのケアの仕方があるんですね。だから、大丈夫ですよというケアの仕方を消防士さんとかが身につけて、認知症に優しい市をつくってはるんですね。それは厚労省も推奨していて、さっきも本人ミーティングというのを厚労省もやっていて、認知症本人の人が参加して困ったことがあったりというのをつながってやったりとか、ほかにも認知症の人のニーズに合わせたものを企業がそうやってつくったらいいかとってつくったりとか、そういうオレンジパートナーズという企業と認知症の人と接点があるとか。

あとは、認知の人が働きやすい、働くシステムをつくるとかということをやってはって、9 ページのところに福岡市長から直接伺ったんですけど、ユマニチュードケアという認知症に対するケアの仕方を市が取り入れて取り組むことによって、介護者のストレスも負担も軽減されたりして、介護職員が認知症の人の介護で本当に疲れて離職したりとか、この仕事は向いてないわとなったりすることも防げるし、あと医療費の削減ですよ。認知症の症状が緩和されることによって、市としての医療費がすごい削減されるし、介護費も削減されます。

それから、認知症の人の住之江区もあるんですけどオレンジサポートチームの人がいるんですけど、もっと認知症のケアに特化したユマニチュードケアというのを市がサポーターを養成していて、それを消防署の人も100人かな、受けていると言ってはったんですけど、そういうのをやって本当に差別のない優しい本当に安心して徘徊できるまちづくりというのをつくってはって、また大阪市もユマニチュードを取り入れたらいいよと、呼んでくれたらいつでも行きますよと。この人はドクターなんですね。ドクターで副市長をされているんですけど、本気で取り組んではるんですよ、予算もかけて。福岡市長は男の人なんですけれども、取り入れてはるけど、そういう福祉のところにすごい力を入れてはっていいなとすごい思って、うちの理事長もいつも本当に優しいまちづくり、住みやすいというところもあったので、こういうのを何かまた参考にしてもらえたらありがたいなと思います。

うちの看護師なんですけど、認知症に特化したこのユマニチュードケアができる看護師もいるので、多分報酬とか要らないので広めたいというので、そういうまた企画とかしてくださればそういうところには出向くことができるんじゃないかなと、そこは要相談なんですけど、そういうのをやっていかせてもらえたらなと、行かせてもらおうというか、そういうまちにできたらいいなと思っています。

以上です。

○長谷部会長

ありがとうございます。一番は今後、さっきも言ったように高齢者が多くなってくるイコール認知症の方が増えてくると。実際に我々も、私も民生を21年ぐらいやってる中で、本当に年に1回、2回研修に行ってやってきたから、多少は分かるけど、実際の数字は認知症の、さっきも言ったように、認知症の方の軽い重い症状は別にして、やっぱり何をどうしたらええねんというのをなかなか、研修というか、大勢いる中で話を聞いてそれだけだとなかなか理解できないので、その日々の生活の中で今いう近隣にそういう方がおられたときにどう対応するかというのはやっぱり勉強していく必要があろうかと思います。これは区役所だけじゃなくて大阪市、大きく言えば日本として真剣にこれから考えていかんとあかん時代にはどうになっているんじゃないかなと思うので、今お話を聞きまして、ありがとうございます。

時間も大分押し迫ってきたんですけれども、竹内さん、何かほかにもう一つ。

○竹内委員

2-2で、職員の方の感度の向上というのがどこかに出てきていましたよね。2-2-1か。研修を通じて「感度の向上」していきますと、それは一つの手だてとしては、「研修等」となっていて「等」のところを少し御意見なんですけど、研修だけでなく、私は民間の企業におりましたのでその経験を少し御紹介させていただくと、皆さんはトヨタのカイゼン活動はお聞きになったことがあると思うんですけど、要は今やっている仕事を必ず変えていくというか、改善していきましようというところ

ろで、前任者から引き継いだ仕事をそのまま、また後任の方に引き継ぐというのはあり得なくて、必ずというか、お役所の仕事は必ず決まったとおりにやっていくことが一番大事なところだとは思いますが、私ら民間のところは前の人から引き継いだ仕事をそのまま引き継いだら駄目だと、必ず変えないといけない。ただ、当然時代が変わるし、ツールなんかも変わってくるので、それに応じて仕事をどんどん変えないといけない。それが実は、ここから言いたいことなんですけど、評価の中に入っているんですよ、その人の。だから、仕事を変える、変えるというか工夫をするということをやっていますかと。やって初めて標準なんですね。何も変えなかったら、標準じゃないですよというぐらいですから、必ず私らは仕事を変えていくと、改善していくということをやろくせがついているというか。そのときには必ず何か気がつかないと変えられないですよ、仕事は。

だから、住民の方と接したときに何か気がつくという仕組みですね。そこが非常に大事だと思うんですけど、研修だけでその御本人のセンスだけじゃなくて、どこかに記録してほかの関係部門と共有しますというようなことがどこかに書いてありましたけど、この記録の仕方なんですけど、お勧めはというか、住民の方と接したときにはその住民の方の言葉そのまま書きはったらいと思います。そうしたら、皆さん方は非常に文章をうまく書きはるから、きれいに書き過ぎるとほかの人が読んで気がつかないということになりかねないんじゃないかなと思ってましてね。そちらから送ってきていただくファイルに浄書と書いてあるんです。ファイル名に。浄書というファイル名が我々のほうに送ってきますかという、そこのセンスも一つありますよ。だから、あんまりきれいに書くんじゃなくて、見た目、接したときの発せられた言葉をそのまま書くことが非常に大事だと思います。言葉をそのまま書くと、その人はこんなふうに感じました、何か気がつきました。ほかの部署の人は同じ言葉を見て、違う観点でやっぱり感じる場所が出てくるんじゃないかなというようなことが一つ、御提案というか私の意見として、ここは感度については申し上げたいなと思っていましたところですよ。

○田貝委員

いいですか、今の意見で。例えば電子カルテとかでも前はもう少しきれいに書いていたと思うんですけど、今はEsと言って患者さんが、「わし腹減ってん」とか言ったら、もうそのまま書くんですよ、「わし腹減った」と。そうしたら気がつくんですよ。この人はこういう言葉遣いされる方やなとか、「すみませんけどおなかが空いたんですけど」と言ったら、「すみません、おなかが空きました」と、もうニュアンスが違うじゃないですか。それをお役所だったら「空腹感を訴えている」とか、そうじゃないんですよ。だから、さっきの「わし腹が減った」というふうに書いたほうがきっと伝わるかなというのはすごくよく分かります。

○大西委員

一個だけいいですか。今おっしゃったように、区役所の方が気づきを感じてもらうとか、例えば情報共有するためにはどうしても職員の方の時間が必要なんです。こういうこと、僕も民間ですけど住民の方にサービスを増やそうと思うと、その時間をつくるために必ず業務を減らさないとできないんです。研修を受けてください、例えば何かやってくださいと、職員の方にいろんなことをプラスアルファでやってもらおうと思っても、なかなか今の業務がいっぱいいっぱいだったら、例えば実際に区役所に来られて、自分の業務がいっぱいあったら多分そんな気づきはできないんですよ。それをするためには自分たちの仕事を改善して減らしていくという作業が伴わないと、多分、人間対人間のいろんなコミュニケーションをやっていくというのはそういうものが多分できないと思うので、多分こういうことを区役所さんでいろいろこういうような取組はいいと思うんですけども、それに並行してというか、それに合わせて区役所さんの要は業務を減らしていく。人間ができることをやっぱり重視していくために、それ以外のものは何か機械化するとか、何か別のやり方をするみたいなことがないと、実際問題、研修でいろんなことやってくださいねと言っても、恐らくなかなか余裕がないとできないんです。そのためにそういうのは並行して区役所の中の業務改

善だったり、仕事の工夫だったりとか、先ほど竹内さんがおっしゃったように、いろんな仕事は改善していったって、こういう時間を取ってもらうような区役所の中の雰囲気づくりというのも含わせていかないと、なかなか「研修をやってくださいね」と言っているだけだったら、これは難しいと思うのでそういうのも合わせて御検討いただけたらいいかなと思います。

○長谷部会長

ありがとうございます。

一応いろいろな御意見等を出してもらって、今のお話なんかは役所の皆さんに言っていていただくと助かるなど、ある意味働き方改革ということの中で役所もそれなりに省くところは省くという、ぜい肉を落としていくことは我々企業をやる人間としても大事なことで、今、竹内さんがおっしゃったように日々やっぱり何か変えていかんとあかんわけ。だから、今やったことが明日通じるかといったらそういうことが通じない時代になってきているのは確かなんで、そこのところは役所も一応そういう観点からここで働く人たちのいろんな意味での整理整頓をしていったって、また違う仕事に向かっていただくということが大事だろうと思います。

○田貝委員

もう一個だけいいですか。

○長谷部会長

簡単に。

○田貝委員

すみません、4ページのところがどうしても気になるんですね。4ページ目のところで、解決に向けた取組が自立的に進められている状態が目標で、これだけ見たら棚からぼた餅ちゃうかと思ってしまうんですけど、それは地域の人が自立的に活発になって進めてくれたらいい、そのために区としては環境づくりを進めると、具体的にどういった環境づくりを進めるのか。じゃないと、竹内さんが多分おっしゃりたいと思

うけど、にっちもさっちもどうやって評価判定すんねんといって、どんな環境って何なんって、ごめんなさい、言葉が悪いですね。きれいな言葉で何か書いてもらっているですか。こんなことで、もうちょっと定量化というか、数値化というか、具体的にというか、何でもいいんですけど、何かこれはできたらいいというので。

○井平協働まちづくり課長

この目標がそれぞれの取組につながっているんです。それがまだ足らんという御意見やと思いますので、そこは検討していくんですけど。もともとこの地域の活性化というのは、大阪市的には地域が自立していろんなことができる状態を目指していくとなっているので、それに向けて地域活動協議会に対して補助をしたりとか、まちづくりセンターを通じていろんな地域の活動の支援をしてというのが今の現状なんです。そこが2-1-1とか2-1-2で具体的にこういう取組をしていますという形につながっているんで、そこはまたいろいろ分かりやすいように次に向けて考えていきたいと思います。流れはそういう形なので、ここのところに具体的に書く内容ではなく中期的な計画になりますので、そこはちょっと具体的なところでどう数値化していくかをまたいろいろ考えていきますので、いろいろ意見をいただいて考えていければいいなあと思います。

○田貝委員

明確にしていればすごくありがたいです。

○長谷部会長

一応令和7年度の指標ということになるので、その辺はぜひ報告できるものを報告していただくとか、ある意味数値的なことも教えていただけたらと思います。

一応、大方の御意見はいただけたと思うので、なにぶん短時間で皆さんも思うこといろいろあると思うんですけども、一応1時間という限られた時間の中で、あと2分で時間になります。消化不良のところもあるかも分かりませんが、次回のお機にまたいろいろとお話できればと思います。今日はいろいろと御意見をいた

だきましてありがとうございます。

今日の会議で出た御意見とか、そういうことに対しまして今度の１１月２８日の全体会で御報告させていただきますので、もう予定は決まっているんですよね、２８日で。ということで、いろいろとまた皆さんにお知らせすることがあるかと思いますけれども、今日の議論に関しましては、全体会で報告させていただきます。

本日の予定は以上とさせていただきたいと思いますので、本当に長時間ありがとうございました。

○井平協働まちづくり課長

部会長、どうもありがとうございました。

本日は長時間にわたり御議論いただきありがとうございます。いただいた御意見をしっかりと受け止めまして、今後の区政に反映していけるよう取り組んでまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日の議論を踏まえまして、全体会で報告する資料につきましては、事務局と部会長に一任いただいてもよろしいでしょうか。

○全員

はい。

○井平協働まちづくり課長

ありがとうございます。

それではこれで、住之江区政会議 愛しむ部会を閉会いたします。

また、１１月２８日の木曜日に全体会の予定ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

以下余白